

---

# Summer homework

冴川明希

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Summer homework

### 【Nコード】

N3011L

### 【作者名】

冴川明希

### 【あらすじ】

夏休みの課題を忘れていた越前。課題は『夏を乗り切る特性レシピ』。課題が未提出の者には恐ろしい罰がある…と言われたが、家の台所ではオヤジが邪魔で…

夏休みの宿題が出た。

勿論休みが始まって数日は、そんなもの見向きもせず部活に勤しんでいた。

そんな自分が夕方、帰宅直後に机の上に溜まったプリントを、少し焦りながら発掘したのには訳がある。

発端は今日の部活。

堀尾達、一年トリオがなにやら美味そうな話をしていて、ちょっと興味を持って訊ねてみたら、家庭科の宿題だよと教えられた。

「リョーマくん、知らないの？スタミナのある料理を作って、写真やご家族の感想も付けて出さないといけないんだよ」

「……そんな宿題、あったっけ？」

カチローの説明にもきょとんとしていた自分に、耳聡い桃城がニヤニヤ笑いながら押し掛けてきた。暑い。

「それ、早目にやっとかねーと、間に合わねーぞ」

「未だ一ヶ月近くあるじゃん。余裕つすよ」

「それが甘いんだよ、越前！経験者が語ってた。絶対お盆までにやっつけ。宿題に未提出があつたら試合出れねーんだぞ」

「……そりゃ……」

「それにな」

桃城が声を潜めて一年を手招く。

「一年は知らねーかもしんねえがな、もしこの課題が未提出だった場合な、提出された中で特に奇抜なレシピを選んで、未提出のヤツに強制的に食わして下さるんだよ。わざわざ先生の手作りだぜ」  
「えーそんな話聞いてないっすよー！どういう事っすか、桃ちゃん先輩！！」

堀尾が派手に食い付く。カツオと力チローは怪訝そうに顔を見合わせていた。どうやらその話は彼らも知らなかったらしい。  
桃城は殊更落ち着いた声を選んだ。

「どういう事って、そりゃあ罰だよ」

「そんなん、罰になるんすかねえ。飯食わしてくれるんだったら、オレさぼっちゃおっかなー」

堀尾が調子良く笑った。結構腹は空くし、一食付いてくるなら別に悪くない、と自分も思う。

「たかが料理でしょ？それに先生が作るんだったら別に…」

「お前ら、乾先輩の事忘れてねえだろうな」

「え…」

桃城の思わせぶりな声に、思わず力チローと顔を見合わせてしまった。

「もしかして、この課題、一年生だけじゃない…？」

カツオの推測を、桃城は首を縦に振ることで肯定した。

「良いか、今日家帰ったらプリントの家庭科の欄をよく見てみる。そこにはな『夏を乗り切る料理を「工夫」して作れ』って書いてあ

るんだぞ。どういう意味か、わかるよな？先生が作るうが、レシピが不味けりゃ、不味いモンがでkindだよ」

そして冒頭に戻る。

瞳を眇めて、オレは宿題一覧の中の家庭科の欄を読み上げた。

「……『夏を乗り切る料理を一品選び、そのレシピ・自分なりの工夫点や、苦労した点、ご家族の感想等もあればレポートに纏めよ。なお盛り付けにもひと工夫する事。完成したものを写真に撮り、レポート用紙の右端に添付せよ』……？どうすんのさ、コレ」

基本的に平日、母は仕事に出かけている。父は気紛れに居るが、料理で役に立つとは思えない。

むしろ、絶対邪魔するに決まっている。一緒に住んでいるイトコは料理上手だが、数日前から実家に帰ってしまったていて恐らく八月一杯は越前家に戻って来ないだろう。

台所は、母とイトコのテリトリーだ。どこに何があるか、情けない事に自分にはさっぱりわからない。多分それは父も一緒だ。アイツが台所でわかるのは、酒の在り処くらいだ。

『乾先輩の事忘れてねえだろうな』

去年、何も知らずに乾の特性夏バテ対策レシピの犠牲になった部員が居たという、事実。

恐る恐る振り向いた先、乾の逆光メガネがキラリと光った気がしたのは気のせいではないだろう。トラウマになり得る、乾汁のあの激烈なマズさを思い出してしまった。それだけで血の気が引いた気がする。大体汁だって日が経つ毎にグレードアップしているのだから、

去年のレシピより、今年の方が強烈な筈だ。

（邪魔するオヤジがいなくて、母さんだけがいる日……）

あるのか？

「ヤバイ……」

足元でじゃれるカルピンがうん、というように空色の瞳で見上げてきた。

どうしよう、と半ば途方にくれながら悩んでいた時、ふと米印に気付いた。そこには少し小さく共同制作でも可、の文字がある。

「ラッキー……！」

不二先輩と、乾先輩じゃなかったら、多分味は大丈夫だ。

さあ、どうしよう？  
誰と作るう？

F i n .

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3011/>

---

Summer homework

2010年10月12日06時32分発行